

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年十二月度 入選句（投稿総数二千五百四十二句・一般投句数七百二十一句）

特選

選者 大堀 武直

良きことは追記もしたる古日記

兵庫県神戸市 紫 桔梗

古日記(生活・仲冬)この一年書き続けた日記帳が年末となり残り少なくなつたものをいう。日々の出来事や思いなどを綴る日記。読み返して悪しきことは受け流し、良きことは積極的に思い出して追記をされた。とてもポジティブな発想である。

冬の蝶 誰もすべらぬすべり台

大垣市 佐藤 すみ子

冬の蝶(動物・三冬)冬に見かける蝶で、初冬から仲冬には暖かい日であれば生き残つた蝶が弱々しく舞っている。

公園であろうか、寒くなつて子供達はいない。すべり台やぶらんこはぼつねんとしている。そこに蝶が現れた。動かないものの中に蝶がひらひらする。余情のある風景である。

躓きし痛み溶け出す柚子湯かな

岐阜市 堀江 美州

柚湯(行事・仲冬)冬至の日に風呂に柚の果実を浮べて、無病息災を祈るという風習。躓いて向う脛でも打たれたのだろうか。そこは弁慶の泣き所ともいいとても痛い所だ。柚湯に入り、その温みと香りと薬効により痛みが和らいでゆく。痛みが溶け出すという飛躍した表現がおもしろい。

秀逸

鹿鳴くや草書で記す相聞歌

福井県敦賀市 山田 美千代

ふるさとがつんと匂ひし隙間風

東京都世田谷区 関戸 信治

店頭のおはぎで気付くけふ彼岸

大垣市 永江 美佳

いつもなら通り過ぐ道帰り花

岐阜市 花川 和久

友逝きて一人の茶房吾亦紅

大垣市 安田 むつこ

棟梁が先ず立ち上る焚火の輪

不破郡垂井町 富田 実郎

大白鳥抱擁のごと着水す

京都府京都市 石田 かず美

待つ人のなき故郷や寒鼻

大垣市 森川 きよ子

噴く山を隣に置いて眠る山

大垣市 村田 通夫

深夜便発つ置き去りの時雨傘

神奈川県川崎市 佐藤 廣枝

入選

案山子達着くずれしまま納屋に入る	大垣市	大角	信華
飛び入りの火消し半纏運動会	不破郡垂井町	北村	廣美
何色の表紙にしよか日記買う	大垣市	佐竹	露子
冬薔薇や硬き木椅子の礼拝堂	愛知県名古屋市	舘野	茂子
寄鍋や所帯を成さぬ三兄弟	養老郡養老町	田中	秀草
ままごとの想い出の皿赤まんま	大垣市	安田	むっこ
萩の花風にうなづき従いて	大垣市	稲葉	妙宏
沈みゆく陽をとどめけり曼珠沙華	安八郡神戸町	大槻	恭子
浮雲に片脚潜る時雨虹	大垣市	三輪	千芽
秋惜しむ瀬音かすかに峡の宿	大垣市	日比野	友子

入選

まだ色を明かさぬ菊の小鉢かな	大垣市	鶴田	信子
花終記念写真はいつも端	千葉県印旛郡	寺嶋	和江
小春日を使ひ切ったる一ト日かな	大垣市	田中	雅子
拝殿は猫の溜り場秋うらら	大垣市	安田	直隆
庭師来て鉢の音も年の暮れ	大垣市	川瀬	喜梅古
御手洗の水音ばかり神の留守	安八郡神戸町	高橋	日出美
柚子風呂や少女は淡き恋を知る	大垣市	米川	弘子
熱燗にはじめてこぼす本音かな	岐阜市	後藤	衣錦
かくしごと猫に告げたし冬うらら	愛知県大府市	蟻馬	治朗
縁先に爪切る音の小春かな	高山市	直井	照男

選者吟

冬うらら猫に欠伸をうつさるる

武直